齋藤茂吉全集

第十八卷

齋藤茂吉全集

第十八卷

第二十八回配本（全三十六巻）
齋藤茂吉全集　第十八巻
定價　二千二百圓

昭和五十年四月十四日　發行

著者　齋藤茂吉
發行者　岩波雄二郎
發行所　〒101 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社　岩波書店
電話（〇三）二六二 四二一

印刷・精興社　製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

© 齋藤茂太 1975

柿本人麿　四

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目次

雜纂篇

自序……三
柿本集考證……七
柿本集に就いて……九
柿本集……七九
勅撰集選出歌考證……二六七
古今集（總數七首）……二六九
卷三夏歌　一　卷四秋歌上　一　卷六冬歌　一
卷九羇旅歌　一　卷十三戀歌三　二　卷十七雜歌上　一
拾遺集（總數百四首（內長歌一首、旋頭歌二首、重出一首））……二七三
卷一春　二　卷二夏　一　卷三秋　三

卷四冬　三　卷六別　一　卷八雜上　十二
卷九雜下　五（長歌一　旋頭歌二）　卷十神樂歌　三　卷十一戀一　六
卷十二戀二　七　卷十三戀三　十八　卷十四戀四　十一
卷十五戀五　九　卷十六雜春　一　卷十七雜秋　八
卷十八雜賀　一　卷十九雜戀　六（重出一）　卷二十哀傷　七

新古今集　總數二十三首……三四

卷三夏歌　一　卷四秋歌上　二　卷五秋歌下　六
卷六冬歌　二　卷八哀傷歌　一　卷十羇旅歌　二
卷十一戀歌一　三　卷十三戀歌三　一　卷十五戀歌五　二
卷十七雜歌中　二　卷十八雜歌下　一

新勅撰集　總數六首……三三七

卷四秋歌上　一　卷五秋歌下　一　卷十四戀歌四　三
卷十八雜歌三　一

續後撰集　總數十一首……三四一

卷一春歌上　一　卷二春歌中　一　卷三春歌下　一
卷五秋歌上　一　卷七秋歌下　二　卷八冬歌　一
卷十一戀歌一　一　卷十二戀歌二　一　卷十五戀歌五　一
卷十九羇旅歌　一

續古今集　總數二十六首……三四七

卷一春歌上　二　卷二春歌下　二　卷三夏歌　一
卷四秋歌上　二　卷五秋歌下　一　卷九離別歌　一
卷十羇旅歌　三　卷十一戀歌一　二　卷十二戀歌二　一
卷十四戀歌四　六　卷十七雜歌上　一　卷十八雜歌中　二
卷十九雜歌下　二

玉葉集　總數二十四首……三六〇

卷一春歌上　三　卷三夏歌　一　卷四秋歌上　二
卷五秋歌下　一　卷六冬歌　二　卷八旅歌　四
卷九戀歌一　二　卷十戀歌二　三　卷十二戀歌四　一
卷十三戀歌五　二　卷十五雜歌二　二　卷十八雜歌五　一

續千載集　總數四首……三七二

卷一春歌上　一　卷四秋歌上　一　卷七雜體　一
卷十二戀歌二　一

續後拾遺集　總數十一首……三七四

卷一春歌上　一　卷二春歌下　一　卷四秋歌上　一
卷五秋歌下　二　卷六冬歌　一　卷八離別歌　一
卷十一戀歌一　一　卷十二戀歌二　一　卷十三戀歌三　二

風雅集　總數九首……三八〇
卷一春歌上　三　卷二春歌中　四　卷九旅歌　一
卷十四戀歌五　一
新千載集　總數十首……三八五
卷一春歌上　一　卷三夏歌　一　卷四秋歌上　一
卷五秋歌下　一　卷六冬歌　一　卷十一戀歌一　二
卷十二戀歌二　二　卷十三戀歌三　一
新拾遺集　總數十五首……三九〇
卷一春歌上　一　卷二春歌下　一　卷四秋歌上　二
卷五秋歌下　三　卷九羇旅歌　一　卷十哀傷歌　二
卷十一戀歌一　二　卷十四戀歌四　二　卷十八雜歌上　一
新後拾遺集　總數三首……三九八
卷五秋歌下　一　卷八雜秋歌　一　卷十羇旅歌　一
新續古今集　總數三首……四〇〇
卷一春歌上　一　卷四秋歌上　一　卷五秋歌下　一
香川景樹　柿本朝臣人麻呂歌師說……四〇三

鴨山後考其他……四三五
鴨山後考……四三七
粕淵村湯抱の『鴨山』に就いて……四四一
人麿閲歴の一暗指……四五九
『湯抱』は『湯が谷』か……四六三
辛乃埼考其他……四六五
辛乃埼考……四六七
琴高磯・辛の浦・床の浦其他……四七七
『カラノ浦』に就いて……四八五
『唐の島』其他……四八九
屋上山……四九二
藤原宮御井に就いて……四九五
藤原宮御井考……四九七
二たび藤原宮御井に就いて……五二〇
「藤原宮御井考」追記……五四六

人麿地理踏査錄……五五一
備後・石見・讃岐・伊豫・淡路・大和……五五三
浮沼池・鴨山・尾道・鴨公其他……五七一
人麿雜纂……五八三
伊能忠敬の「測量日記」……五八五
人馬賃錢の事……五八九
本朝神社考……五九二
柿本大明神略緣起……五九四
櫟本の柿本寺略緣起……五九六
人麿神疫病除け靈驗……五九九
埴科人丸大明神碑樹立由緣碑撰文……六〇三
小室氏人麿明神緣起……六〇六
出雲伯耆より姫路・新見……六一一
あての木……六一三
雜錄……六一五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

柿本神社參拜記念……六一九
柿本人麿御傳……六二六
超大極秘人丸傳……六三四
歌道筒守二重之卷……六四二
歌仙二葉抄……六四七
人麿像補記……六六一
小考……六七七
諸説記載に就いて……六七九
いほる考……六八〇
『うはぎ』補遺……六八三
賀茂・鴨・神・龜……六八七
『亂友』に關聯して……六八九
『みだる』の語原……七一〇
月西渡……七一四
『球』を『たむ』と訓む小考……七一五

人麿文獻補遺……七二一
「柿本人麿」縁起……七八七
鴨山『三瓶山』説に就いて……八〇五
人麿文獻補遺……八一一
鴨山一説……八一三
小篠大記……八一六
後記……八一七

雜纂篇

自序

本卷は、前卷までに收め得なかつた人麿に關する雜事諸篇を收めたものである。そのうち歌に關しては、「柿本集考證」と、「勅撰集選出歌考證」とが主なものであるが、前者は所謂歌仙家集（三十六人集）中の柿本集で、純粹に人麿作と看做し得ぬ紛亂したものである。併し或時代に人麿の歌がかかる有樣を以て傳へられつつあつたといふことを觀察するに便利であり、訓などの上にも少しく參考とすべきもののあらむことを思ひ、夙くからその小考證を志してゐたものである。後者は評釋篇と幾たびも重複する嫌ひあるものであるが、古今集以後の勅撰集に人麿の歌がいかに取扱はれたかを知るうへに便利だらうと思つて纏めて見たのである。そのうち例へば、人麿作と謂はれてゐる、『ほのぼのと明石の浦の朝霧に島がくれゆく舟をしぞ思ふ』といふ歌は、實は古今集に作者不詳の歌であるから、評釋篇には出て居ない。また、小倉百人一首に人麿作とせる、『足引の山鳥の尾のしだり尾のながながし夜を一人かも寐む』といふ歌も、萬葉集では作者不詳の歌であるのに、拾遺集に人麿作として載つたために、小倉百人一首もそれを踏襲したのである。

さういふ種類の歌は總て評釋篇には出て居ないので、やはり此卷で記して置く方が便利であるから、煩瑣重複を厭はずそれを纏めたのであつた。

「鴨山後考」、「辛乃埼考」、「藤原宮御井考」等は皆小考證に過ぎぬけれども、私の主觀では全五卷を通じて最も心樂しい部分に屬するものである。特に人麿臨終地に關する、「鴨山後考」は、嘗て「鴨山考」で結論した粕淵村小原の津目山から、粕淵村湯抱湯谷の鴨山に移動したものであり、私はこの小發見を樂しんで終身厭かざらむとしてゐる。

その他の雜纂は、取立てて云ふほどのものではなく、神道で人麿を取扱つた部分、人麿肖像、人麿地理踏査錄、文獻補遺等若干の小文は、寧ろ總論篇の補遺として役立つに過ぎぬものである。

數篇の「小考」は、これもまた評釋篇の部分的補訂に類するものである。評釋篇は能ふかぎり勉强したのであつたが、執筆年代によつて齊一の手際を缺き、いまだ顚倒錯謬の缺點を免れ得ないとおもふので、先づこの志を示したのであつた。向後も先輩の教をあふぎつつ、みづから獨斷に僭することを懼れつつ、この企を續行したいと念ふのであるが、この拙著も既に冗長にわたつてしまつたので、本卷をあはせた五冊を以て一先づ打切ることにしたいとおもつたのである。

顧れば、總論篇を發行した昭和九年以來、この雜纂篇を發行するに至るまで足掛け七年の歲月を閱した。その間諸先生諸友人の教示鞭撻助力を得たこと極めて多大である。私はここに深き感

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com